

2025 年度(令和 7 年度)学校評価自己評価表

新市中央中学校区	校番 66	福山市立常金丸小学校
最終更新日		2026年(令和8年)2月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力、自己理解力、自己表現力
<ul style="list-style-type: none"> 「オール新市」を掲げる中で、地域の良さの発信やボランティアの取組など、もっと地域を好きになる取組を進めてほしい。 HPなどで出前授業の取組(キャリア教育の取組)は興味深く、今後も継続して児童生徒にたくさん学んでいただきたい。 学校に登校できない子供たちにも目を向け、そこへの取組をもっと発信した方がよい。(知らない人が多い) 	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査等をはじめとした学力調査を踏まえ、基礎的・基本的な内容の定着に重点を置く必要がある。 キャリア教育の実践を通じ、校区で育てたい資質・能力を意識しながら様々な活動に取り組むことができおり、4月当初から12月末で、肯定的評価をする児童生徒が増えている。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	<ul style="list-style-type: none"> 自分の目標達成に向けた計画を立て、取り組む児童生徒。そして、その取組を定期的に振り返り、改善策を考える児童生徒。 自分の将来の夢や目標を持つ児童生徒。 自分の思いや考えを相手に分かりやすく説明する児童生徒。
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 地元事業者や地域の方と育成したい資質・能力を共有しながら、出前授業、探究学習、職場体験学習、面接など、様々に取り組んでいく。

III 自校

ミッション	育成する力 資質・能力	チャレンジ&チェンジする力	自己理解力	自己表現力	
学校がコミュニティの役割を担い、地域の伝統・文化、地元企業や人材、豊かな自然を取り込みながら地域とともに児童を育む学校づくりを推進する。	めざす子ども像	低学年	自分のやりたいことに挑戦する。	自分の良さに気付く。	自分の思いを相手に伝えることができる。
学校教育目標		中学年	困難なことにも挑戦し、最後までやりきる。	自分の得意な事や夢中になれる事を見つける。	自分の思いや考えをまとめて表現することができる。
自ら学び 心豊かに たくましく生きる子どもの育成		高学年	活動をふり返り、改善策を考える。	自分の将来の夢や目標を持つ。	自分の思いや考えを多様な表現方法を用いて説明できる。
現状	研究	テーマ	自分の言葉で思いや考えを表現できる授業づくり ー 児童が主体的に学び続ける単元・問いの工夫 ー		
<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> 授業や行事を通して、ふり返りを様々な方法で行い、書いたり発表したりして、自分の思いや考えを表現できる児童が少しずつ増えている。 縦割り班活動や他学年、地域の方々と交流する場が多くあり、「自分の良さが認められている」と感じている児童は93.4%である。 全国学力・学習状況調査から、学びに向かう姿勢や学習習慣は少しずつ定着しつつある。しかし、国語「書く」算数「図形」の領域における理解が特に低かった。また、基礎的・基本的な内容も個々の理解度に差が見られる。(正答率 40%未満の児童14.7%) <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方々が組織的に学校に関わってくださり、総合的な学習の時間を中心として、地域、福祉、環境、伝統をテーマにした体験学習に取り組んでいる。 基礎的・基本的な内容を定着させた知識や技能を使って、課題解決に向けた考えを自分の言葉で伝え合うことのできる授業改善に取り組んでいるが十分ではない。 	内容等	<ul style="list-style-type: none"> 児童が学び続ける単元を貫く問いの工夫や単元構想 課題解決に向けた自分の考えを伝え合う学び方 			
		めざす授業の姿	<ul style="list-style-type: none"> 自ら課題を見つけ、友だちと対話し協働して学ぶことがおもしろいと感じる授業 児童が自らの選択や決定を通して、主体的に学び表現している授業 課題について「なんでだろう・やってみよう」「なるほど・もっとやってみよう」と思う授業 		

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立常金丸小学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)						
						□指標に係る 取組状況	7割 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎前期(中期)経営 目標の達成状況	7割 評価	達成 評価	総合 評価	改善方策	
2	子どもが学 びに向かう 力、学び続け る力を育成 する。	★ 見 直 し	目標達成に向け て、自分なりの 方法で取組み、 改善策を考え行 動する児童を育 成する。 (チャレンジ&チェ ンジする力)	・自らの目標に向 け自己選択・決定 の場を通じて学 びを深める授業 に取り組む。 ・個々の理解度 に応じた支援を 授業で行い習得 させていく。 ・毎週水曜日を校 区メディアコン トロールDayと して生活習慣を 確立する。	・「学ぶことが面白い」と感じ ている児童を90% 以上にする。 (R6 93.6%) ・国語・算数の単元テ スト、学力テストにお いて40%未満の児童を 15%以下にする。 ・1日当たりのゲームが 3時間以上の児童を 0%、体力テスト県平均 の項目昨年度以上にす る。(R6 82%)	・「学ぶことが面白い」と感じ ている児童は、83.4%であ った。 ・単元テストにおいては、40%未 満の児童は、国語・算数とも0% であった。しかし、学力テストに おいては、国語7%、算数21%で あった。 ・ゲーム3時間以上/日の児童は 26.8%、体力テスト県平均の項目 は60%であった。 □課題解決に向けて自己選択・決 定、個々の理解度を大切にす た支援を行ってきた。メディアコン トロールDayに合わせて興味のある 課題や体力づくりを設定した。	3	3	・授業の中で、自己選択 や自己決定の場を設定す る場を設け、受け身ではな く、児童主体の学びとなる ようにする。 ・授業づくりポートフォ リオをもとに、各クラスの ターゲット児童を中心とし た支援を行っていく。 ・メディアコントロール Dayを学校運協協議会と 連携し、下校後の過ごし方 を地域と取り組んでいく。	・「学ぶことが面白い」と感じ ている児童は、90.3%であ った。 ・単元テスト40%未満の児童は国 語0%、算数2.5%であった。 ・ゲーム3時間以上/日の児童は、 12.2%、体力テスト県平均の項目 は67%であった。 □児童が学習の様々な場面で自己 目標を決め、目標達成に向け る取り組みを進めた。担任が児童一人 一人の理解度を把握し、授業の中 で個に応じた支援を行うように した。 ◎児童が自分の目標を設定し、目標 達成するための方法を考え、取 組む力を身につけることができた。 自己の課題に向き合う態度を身に 付けることができた。	3	3	3	・授業の中で、児童 が活躍できる場(自 分の思いを伝えら れる場、班やグル ープで協働できる場 など)を取り入れ、 児童が主体的に活 動できるようにし ていく。 ・基本的な知識・技 能は、スキルの時間 を活用して復習を 取り入れていく。	
			継続	自分の良さを 知り、伸ばそう とする児童を 育成する。 (自己理解力)	・縦わり班活動や 異学年交流を通 じてかかわり合 う場を設定す る。	・自分のよさが認め られていると感じ る児童を90%以 上にする。(R6 93.4%)	・「地域とふれ合い を感じている児童 は85.9%であ った。 □縦割り班掃除の 振り返りの時間 にがんばっていた 児童を褒める活 動を行った。	3	2	・なわとび集会や草 取り活動など縦 割り班活動を増 やし、互いに協 力し合い肯定的 評価をしていく 場面を増やす。	・自分のよさが認め られていると感じ る児童は、80.4% であった。 □掃除の反省など でよいところを 見つけ認め合っ ていた。高学年 の良さを教師が 進んで取り上げ た。結果の詳細 として高学年の 数値は上がり、 低学年は下が っていた。 ◎児童一人一人 の思いに気づく ことができた。	3	2	3	・学級経営や授業 の中で児童一人 一人の良さを 取り上げてい く活動をさら に進めていく。
			見直し	自分の思いや考 えを多様な表 現方法を使って 説明できる 児童を育成す る。 (自己表現力)	・児童の課題解 決に向けて交流 館、地域や地元 企業と一緒に授 業に取り組む。 ・教科の学びを 生かした様々な 方法で自分の考 えや思いを伝え 合う活動や場を 設定する。	・「地域とふれ合 い学ぶことが できた」児童を 90%以上にす る。 ・自分の学びを 振り返り「自分の 考えや思いが表 現できた」児童 を90%以上に する。(R6 93.4%)	・「地域とふれ合 い学ぶことが できた」児童は 93.0%であ った。総合的な 学習の時間や交 流清掃などで 地域の人と交 流する機会が 増えた。 ・自分の考えや 思いが表現で きた」児童は 85.7%であ った。 □学習課題を 地域と共有して 体験学習を計 画実施してきた。 様々な場 面において、 自身の学びを 伝えてきた。	3	3	・学習課題に 応じて、柔軟 に地域や地元 企業等と連 携した授業 や体験活動 を組み込ん でいく。 ・自分の考え を説明した り伝えたり する活動を 授業の中 で積極的に 取り入れ、 児童が思い を表現でき る場を設定 する。	・「地域とふれ 合い学ぶこと ができた」 児童は、98.8% であった。 ・「自分の考 えや思いが表 現できた」 児童は、87.8% であった。 □教科の学 びを生かして、 自分の考 えや思いを 作文に書い たり、新聞 にまとめる 活動を取り 入れてきた。 ◎地域の人 に自分たち の思いを 伝えるとい う意識を もち、様 々な表現 方法で伝え ることが できた。	3	3	3	・引き続き、 学習課題 に応じて地 域や地元 企業と連 携して学 習をする。 ・自分の考 えを説明 したり伝 えたりす る活動を 授業の中 で積極的 に取り入 れ、頑張 ったこと を肯定的 に評価し ていく。
5	教職員が元 気・笑顔で 勤務でき る環境を 充実させ る。	★ 見 直 し	教職員がやり がい・充実感 を持って 教育活動 を行う。	・教職員の気 付きやアイ デアを取り 入れ業務 改善に全 員で取組 む。 ・教材研究 を全員で 行う場を 設定して 取組む。	・「自分の仕事 にやりがい がある」教 職員を100% にする。 (R6 100%) ・「教科の面白 さを実感 している」 教職員を 90%以上に する。	・「自分の仕事 にやりがい がある」教 職員は100% であった。 ・「教科の面白 さを実感し ている」教 職員は100% であった。 □各分掌や 担当に任せ ることを 意識し、授 業アイデア 等を実践 してきた。	4	3	・やりがいの質 を高めるた めに、放課 後の情報交 流を充実 させる。 ・暑会等 を利用して 、授業アイ デアを相 談できる 機会を作 り、実践 経験談等 を交流し ていく。	・「自分の仕事 にやりがい がある」 教職員は100% であった。 ・「教科の面白 さを実感し ている」 教職員は100% であった。 □日々のOJT を通して任 せてやり 切ることを 意識し、研 究や行事等 を実践して きた。 ◎ボトムア ップや全 員参加の 教材研究 等、やりが いに繋が った。	4	4	4	・引き続き 教職員の 個性を生 かした分 掌に努 める。 ・業務が 標準化 するよ う全体 のパラ ンスを 考慮し て見直 す。	

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。